



## 2014年 資料集



2014年1月24日 東京

25日 埼玉県飯能市

26日 京都市

関西野生生物研究所

## アライグマ勉強会と連続シンポジウム開催にあたって

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」が2004年公布、2005年に施行され2014年で10年になりました。関西野生生物研究所のメンバーは日本の生態系に甚大な被害を与えるおそれのある生物種の輸入を禁止すべきであると訴えて法律の作成を強く願い活動してきました。法律ができたところで開催された外来生物の国際シンポジウムにニュージーランドのIUCN/ISSG(侵略的外来種専門家グループ)代表 M.Clout 氏を招聘し、法律の成立を報告できました。しかし、彼は「法律ができて良かった、ところで川道は日本にすでに侵入した外来生物に関して、対策のための具体的活動を何かしているか？」との問いかけをしてきたのです。残念なことにその時は何も答えられませんでした。

そこで、関西野生生物研究所のある京都でアライグマの実態調査を始めたのが2004年末でした。京都府、京都市に何か記録があるかを問い合わせましたが「アライグマはいないと思う」との回答しか得られなかったため、アライグマがいるかどうかの手がかりを探すことから始めました。すでに神奈川県でアライグマ対策を開始していた金田正人さんの指導を受けながら、アライグマ出没情報のあった寺で出没の痕跡を探したところ、これまで見たことの無い「5本の爪痕」が柱などに多数つけられていることを見つけました。こうした爪痕を手がかりに京都市の山沿いにある社寺を訪ねたところ「実はアライグマで困っている」「アライグマの親子が屋根裏にいて、困って捕獲したが市が引き取ってくれないので、山に放した」という声がありました。また、爪痕の多い社寺であってもアライグマが来ていることを知らず、「天井裏から大きな音がする」「水のようなものが天井裏から滴ってくる」とのこと。アライグマであることを伝えると大変に驚くという状況でした。文化財を破壊するなど被害は甚大、しかし行政はまだ動かないという中で、2005年から関西野生生物研究所として、社寺を中心に調査と学術捕獲を開始しました。

アライグマ被害の調査をして行くと、多くの地域でアライグマの社寺侵入や農作物の被害があることが明らかになりました。それら多くの地域で、アライグマの実態やその対策方法が分かっていなかったことから、全国的な調査とアライグマ対策セミナーを開催してきました。本勉強会（東京）と連続シンポジウム（飯能市と京都市）もその一環です。各地でNGOやNPO、法人、大学、地方行政の方々との連携もでき、調査などを支えていただくことができるようになり、活動の幅が広がって来ました。

10年にわたる調査、普及活動を資金面で支えていただいた平成17、18、19年度の京都府生物多様性保全推進事業補助金、平成20、21、22、23年度地域力再生プロジェクト支援事業（京都府）、平成21、22、23、24年度の経団連自然保護基金、平成24年度の地球環境基金に深く感謝いたします。また、本プログラムを開催するにあたって、平成25年度文化財を守り伝える京都府基金補助事業、平成25年度公益信託経団連自然保護基金、平成25年度トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けたことに深く感謝いたします。

関西野生生物研究所 代表 川道美枝子

## アライグマ勉強会・連続シンポジウムプログラム

講演レジメはHPをご覧ください [www.h3.dion.ne.jp/~invasive/kansai/](http://www.h3.dion.ne.jp/~invasive/kansai/)

アライグマ勉強会 in 東京

### アメリカのアライグマの行動と社会：アライグマの野生での 行動や社会と捕獲手法、狂犬病対策を聞く

北米原産のアライグマはすでに47都道府県にその分布を拡げ、各地で大きな問題になっています。日本に分布しているアライグマの行動やその社会についてはあまり分かっていません。そこで、現在アメリカでアライグマ問題に携わっているコーネル大学のStephanie Hauverさんをお招きしました。ステファニーさんは最近400頭のアライグマ捕獲をしたり、狂犬病対策にも関わっています。アライグマの野生の行動や社会はどのようなものか、どのようにすると効率的な捕獲ができるか、狂犬病対策の実態など、講演いただいた後に、じっくりと質疑の時間をとります。

日時 2014年1月24日（金） 18:30-20:30

場所 都庁第1本庁舎 33階 特別会議室S1

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

主催：関西野生生物研究所

後援：生物多様性JAPAN

プログラム 18:30-20:30

18:30-20:00

原産地のアライグマの行動や社会、捕獲手法、狂犬病対策

講演 Stephanie Hauver氏（Cornell University）・・・資料1、2

通訳：川道 武男（関西野生生物研究所 理学博士）

20:00-20:30

アライグマ問題についての質疑と自由討論。

本シンポジウムは平成25年度公益信託経団連自然保護基金、平成25年トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて開催されます。本勉強会の開催にご協力をいただいた東京都に感謝いたします。

## 「アライグマシンポジウム in 飯能」

### 鎮守の森の生物多様性を脅かすアライグマ問題

主にアライグマの分布拡大と個体数増加により、京都のみならず各地で生物多様性の破壊や文化財への侵入が起こっています。その被害は甚大です。アライグマ拡大防止のための手法を普及させることを目的とし、シンポジウムを開催します。

日時：2014年1月25日（土）13:00-17:00

- ・ 場所：飯能市美杉台1丁目2番地の1「美杉台地区行政センター（美杉台公民館）」集会室

主催：関西野生生物研究所（KWRA）・NPO法人「天覧山・多峯主山の自然を守る会」

後援：公益財団法人「トトロのふるさと基金」・生物多様性JAPAN・飯能市

#### プログラム

- 司会 対馬良一（天覧山・多峯主山の自然を守る会；トトロのふるさと基金）
- 挨拶 浅野正敏（NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会）
- 来賓 飯能市農林課 農務担当リーダー 主査 宮寺裕章氏
- 講演1. アライグマは何が問題か「生態系、農水産業、文化財への被害」・・・資料3.  
川道美枝子（関西野生生物研究所 立命館大学客員研究員）
- 講演2. アライグマは何が問題か「アライグマがもたらす疾病の危機」・・・資料4.  
加藤卓也氏（日本獣医生命科学大学 獣医学部 野生動物学教室）
- 講演3. 原産国でのアライグマの行動. ....資料5、6  
Stephanie Hauver 氏 Cornell University（米国コーネル大学）  
通訳 川道武男
- 講演4. アライグマの早期発見と実態を知るための市民活動.  
（狭山丘陵での取り組み）・・・資料7  
堀井達夫氏（公益財団法人トトロのふるさと基金 理事）
- 講演5. アライグマ対策と動物の福祉・・・資料8  
増田真樹子（獣医師・関西野生生物研究所）

本シンポジウムは平成25年度公益信託経団連自然保護基金、平成25年度トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて開催されます。

「アライグマシンポジウム in 京都」

## アライグマによる鎮守の森の生物多様性被害防止と 文化財保全のためのシンポジウム

主にアライグマの分布拡大と個体数増加により、京都のみならず各地で生物多様性の破壊や文化財への侵入が起こっています。その被害は甚大であり、文化財の修復費用も大きな負担になっています。その実態を広く理解いただき、文化財管理者や市民、研究者、行政担当者の協力体制をより強固なものとし、早期の対策や建造物への侵入防止のための手法を普及させることを目的とし、シンポジウムを開催します。

日時：2014年1月26日（日）

13:00～17:15

場所：立命館大学衣笠キャンパス

歴史都市防災研究所 地階 カンファレンスホール住所：京都市北区小松原北町58

主催：関西野生生物研究所（KWRA）・立命館大学歴史都市防災研究所

後援：京都仏教会・明日の京都 文化遺産プラットフォーム・生物多様性 JAPAN

### プログラム

第一部 13:00-15:00

アライグマの野生での生態 Stephanie Hauver 氏（Cornell University）

・・・資料5, 6, 9 川道 武男（関西野生生物研究所 理学博士）

日本におけるアライグマの問題 ・・・資料2, 資料10

川道 美枝子（関西野生生物研究所 理学博士）

第二部 15:15-16:45

文化財へのアライグマ問題 ・・・資料11

平井 俊行氏（京都府教育庁文化財保護課 建造物担当課長）

文化財建造物におけるアライグマなどの獣害を体験して・・・資料12

中村 覚祐氏（聖護院 執事長）

文化財への被害をどう防ぐか ・・・資料13

谷口 仁士（立命館大学歴史都市防災研究所 副所長）

第三部 16:45-17:15

総合討論 アライグマの拡大と被害をどう防ぐか

本シンポジウムは平成25年度文化財を守り伝える京都府基金補助事業、平成25年度公益信託経団連自然保護基金、平成25年度トヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて開催されます。